

## ごあいさつ



平素より、呉信用金庫に対し、格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。  
ここに第99期（2023年度）の業務の状況を取りまとめましたので、ご高覧いただき、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

2023年度の国内経済を振り返りますと、ウクライナやパレスチナをめぐる地政学リスクの増大や円安局面の長期化を要因とした物価高などの懸念材料がありながらも、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことなどにより、緩やかに回復が進みました。

当地域の経済は、新たな都市づくりに向けて呉駅周辺地域総合開発計画が進むなど明るい材料はあるものの、少子高齢化等の構造的課題に加え、大手企業の工場撤退など依然として厳しい状況にありました。

中期経営計画『「100周年、そしてその先へ」～地域の課題解決への挑戦～』の最終年度となる2023年度は、「地域金融機関としてお客さまや地域の難局へ伴走して立ち向かい、活力ある地域社会の実現」「自己の成長とともに達成感を一層味わうことができる職場の実現」「100周年、さらにその先も安定した金庫経営の実現」を目指して業務運営に取り組んでまいりました。

法人・個人事業者のお客さまには、伴走型支援の取組みを加速させるための訪問体制を構築し、業務提携先との連携による経営課題の解決、成長支援、人材紹介事業などを通じた本業支援へ積極的に取り組みました。さらに経営改善が必要なお客さまには、外部専門機関等を活用した事業再生支援に努めました。

また、タブレット端末により入出金時の伝票記入が不要となる「営業店窓口支援システム」を導入開始したほか、個人のお客さまには、送金サービス「ことら送金」の取扱開始や新NISAの提案など、お客さまの利便性向上や資産形成のお手伝いに取り組んでまいりました。

こうした中、2023年度の業績は、貸出金は11期連続で増加し4,756億円、預金積金は7期振りに減少し8,048億円となり、当期純利益を11億円計上することができました。

このほか、社会貢献として、サッカー、バレーボールなど各種スポーツ大会を主催、一般財団法人くれしん芸術文化財団を通じた地域の文化・芸術活動の振興など幅広い活動に取り組ましました。

これからも地域の皆さまに寄り添った「伴走型」の営業活動に磨きをかけ、2025年9月に迎える創立100周年、そしてその先の時代に向けて更なる地域社会の活力と成長に貢献できるよう役職員一丸となって取り組んでまいります。

引き続きご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2024年7月

理事長

向井淳滋